

生駒市農業ビジョン推進懇話会 第7回会議録 (要点筆記)

- 1 開催日時 平成29年3月28日(火) 午前9時30分～午前11時00分
- 2 開催場所 生駒市役所 4階403・404会議室
- 3 参加者 相川氏 有山氏 石丸氏 井上氏(副座長) 桂氏(座長) 上武氏 坂本氏 高枝氏
樽井氏 中世古氏 中村氏 平沢氏(五十音順)
- (事務局) 異経済振興課長補佐 高橋農林係長 水澤企業支援係長 原田商業観光係員
長田農林係員

4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし

- 5 議題 (1)平成28年度生駒市農業ビジョンの進捗状況について
(2)人・農地プランの変更について
(3)平成29年度の取り組みについて
(4)その他

6 審議内容

- (1)平成28年度生駒市農業ビジョンの進捗状況について

座長 ご意見・ご質問はないか。

参加者 高山町のイノシシの囲いわなはどこにあるのか。

事務局 久保地区。

副座長 新規就農者9名となっているが、どのような状況なのか。

事務局 個人だけではなく、農と福祉の連携として福祉団体や会社が就農している。退職してから始めた方もいる。生計をたてることのできるような方は今年度はいなくて、青年就農給付金等の活用はない。

参加者 農地を借りたいが、新しく出てきた情報を得られない。新規で就農を始めたら、農地が必要なくなるということはない。経営拡大するには農地が必要となるため、力を貸してほしい。

参加者 SNSを活用して、リアルタイムに情報を発信することはできないのか。

事務局 農業委員会でアンケート調査をして貸出できる農地を調べていて、現在情報を整理している段階である。水はけや日当たりなどの条件や写真データも合わせてホームページで提供できたらと思っている。

座長 いつ頃出来上がる目途か。

事務局 早急にしたいとは思っているが、目途はたっていない。システム化が必要で、現在は情報の整理段階である。

座長 是非力を入れて行ってほしい。先月行った箕面市の視察研修はどうだったか。

参加者 獣害の防止柵を一山まるごと囲っていた。

座長 生駒市は農業振興地域がないが、箕面市のように組織を作ることも不可能ではない。何かつかんで、実現してほしい。

参加者 イノシシによる獣害が増えてきている。今のうちに手を打つ必要がある。

座長 京都も獣害が多くあり、お肉の処理場を作ってジビエとして活用している。

参加者 ハイキングの人が山に入るため、足わなを利用することができないという声を聞く。仕掛けると同時に、周知をすることによって足わなの活用が増えるのではないかと。

事務局 生駒市は山が連なっており、箕面市のように一山囲うことは難しい。先日、県の職員に来てもらって、獣害対策の研修会を行った。そこで話があったのだが、捕獲は最終手段ということである。まず、しなければならないのはイノシシを農地に出さないようにして、山にもどすことである。そのためには、遊休農地の対策が大切となる。対策をすることによって、イノシシも来なくなり、景観も良くなる。他市町村で取り組まれている事例を調べるなどして、対策を提案することも考える。

(2) 人・農地プランの変更について

座長 他の自治体で認定農業者となっても、生駒市で就農していたら、認定農業者として生駒市の人・農地プランに載せることができるのか調べておいてほしい。これで承認してよろしいか。

参加者 はい。
(全員)

(3) 平成29年度の取り組みについて

座長 商工観光ビジョンの進捗具合を教えてください。

事務局 懇話会から提案書を出してもらって、それを踏まえてビジョンの案を作った。4月10日から5月9日までパブリックコメントを行って、6月中には完成できるようにしたい。その中で、地元飲食店と農家の連携促進を商工観光全体に関わる分野として取り上げていて、アンケート調査を実施して、地元飲食店の地元農産物の利用ニーズを把握するという取組メニューが示されている。このビジョン(案)を作成するにあたって、地元飲食店と話す機会があったのだが、「地元の農産物についてどこで誰がどんな農産物を作っているか知らず、分かる範囲で仕入れている」現状だった。まずは知ってもらうことから始めた方が良かったと思った。

座長 ご意見・ご質問はないか。

参加者 連携促進はどういう分野で行うのか。レストランなのか流通業者なのか。

事務局 話を聞きに行ったのは、レストラン、ケーキ屋など。

参加者 地元飲食店との連携事業は、出荷量はそんなに多くなく、配達が大変になるのではないかと。スーパーの地産地消コーナーに出荷できるよう、市にバックアップしてほしい。連携事業として、スーパーに出荷してそこに飲食店が買いに来てくれたら、配達の手間がかからない。

参加者 現在50店ほどのレストランと取引しているが、配達の手間がかかっている。ハブ的なものを商業地帯に作って、そこに生駒市の農産物を出荷する予冷設備を作れば良いのではないかと。ただ、人件費がかかったり、鍵の管理をどうするかなどの問題も出てくると思う。生駒市はベッドタウンで市民が多いため、市民向けにモデル事業として行ったらどうか。レストラン側もそこに取りにくければ、1回の対応ですむため楽になるのではないかと。

事務局 そこで扱う農産物の品質を保証できるようにしなければならない。

参加者 レストランなどが、どういう農産物があるかなど把握していないことが問題である。

座長 生駒市は黒大豆の産地であるが、それを使って何かしようと思っても実需者がどこにいるか分からないのでは困る。組織的なものが必要ではないかと。

スーパーの地産地消コーナー出荷の呼びかけを、新規就農者の要望に個別に対応するのではなく、流通業者を集めて、生駒市の地産地消を進める組織を立ち上げると良いと思う。生駒市の地産地消を進めるというトップセールスを打ち出してほしい。商工観光ビジョンと連携して、前向きに事業を進めていってほしい。アンケート調査については、大学に委託するという手もある。

参加者 農地を人に貸したら、相続税で困るということはないか。

座長 農地を人に貸したら納税猶予を受けることができない。今後は緩和されていくかもしれない。

(4) その他

座長 本懇話会の成果として、地産地消の施設ができれば良いと思う。また市役所が事務局を持っていたら動きにくいのではないかと思う。実行するための民間の組織が必要ではないか。

参加者 10数年前は農家の人口に占める割合は8%くらいだったが、あと数年たてば3%を切るのではないか。担い手に農地を集約して、法人化していくことができれば良いと思う。